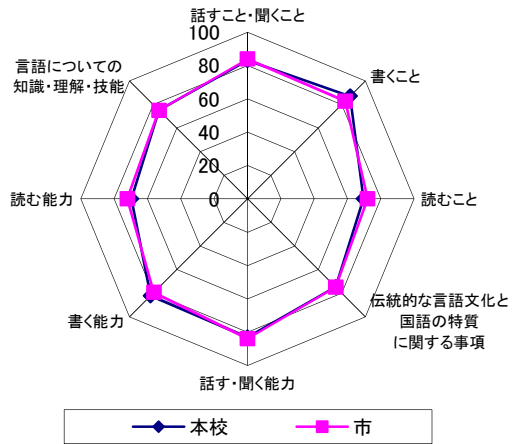


宇都宮市立上河内中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	83.0	83.9	83.1
	書くこと	87.1	82.9	68.6
	読むこと	69.5	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.8	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	83.0	83.9	83.1
	書く能力	82.2	79.3	67.0
	読む能力	69.5	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	75.2	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

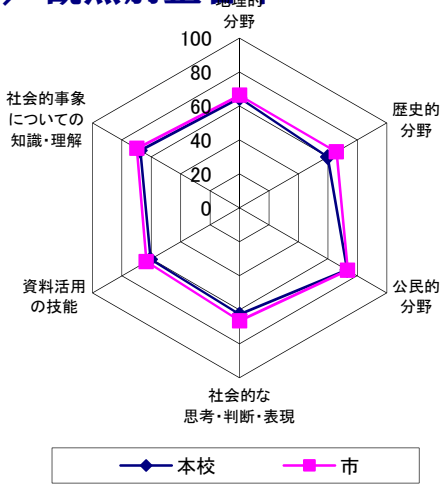
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市の正答率83.9%に対して83.0%と0.9%下回っている。内容をみていくと、話の内容を正確に聞くことができるが、聞き手に理解してもらうための工夫や司会者の工夫の仕方が分らなかったことが分かる。	・話し合い活動を通して話し手や聞き手となり、それぞれどういった工夫をすれば相手に伝わるかを体験していくことが大切である。また、ただ話し合いをさせるだけでなく、よい点を挙げさせ、考えさせることを繰り返し取り組ませる。
書くこと	○市の正答率82.9%に対して87.1%と4.2%上回っている。文章の内容に沿って、自分の考えを書くことができている。	・文章を書くにあたっての文の構成や展開など、どのように書いていくかを適切に指導し、書くことに対する苦手意識を今後もなくす。
読むこと	●市の正答率72.0%に対して69.5%と2.5%下回っている。内容をみていくと、登場人物の人物像は読み取れているが、新聞記事の内容を読み取ることができていなかったり、内容に合う資料も選べていなかったりしている。	・教科書の文章を読むことや、読書を通して物語文には慣れていることが分かる。その他にも論説文を読んだり、新聞を音読させたり、書かせたりしてさまざまな文章形態に慣れさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の正答率74.8%に対して74.8%と同じである敬語や漢字の正答率は市の平均より高い。 ●助動詞や類義語・対義語については理解度が低いことが分かる。	・文法の復習を適宜行っていくことで苦手意識をなくす。また辞書を使って言葉を調べたり、短文を書かせたりして語彙を身に付けさせていく。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	64.7	66.2	58.0
	歴史的分野	59.9	65.8	60.8
	公民的分野	73.1	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.7	66.6	58.6
	資料活用 of 技能	60.6	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	67.5	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
（社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。）



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

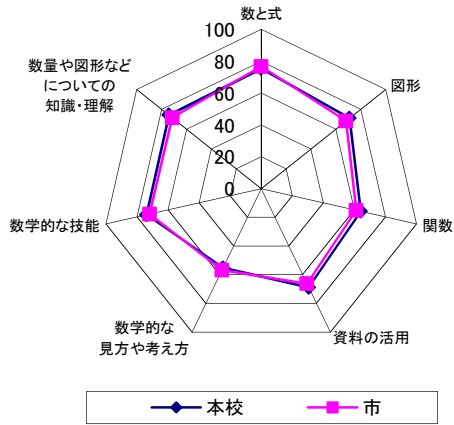
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●○市の正答率66. 2%に対して64.7%と1.5%下回っている。分野別にみると、世界の諸地域に関する問題については、市の平均を1.6%上回った。	第1学年の内容のものは、第3学年になると忘れてしまう事項が増えてくる。繰り返し内容を確認するような手立てを講じる。また、統計的な内容のグラフ分析や資料を比較する学習訓練も繰り返す必要がある。
歴史的分野	●市の正答率65. 8%に対して59.9%と5.9%下回っている。	・社会的事象に関する意欲が高まるよう分かる授業の展開が欠かせない。授業においては、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、資料等を活用しながら、考えさせたり、話し合わせたり、発表させたりしながら、思考力・判断力・表現力を高めていく必要がある。 ・家庭学習等で、学習したことを繰り返し復習する大切さも指導したい。
公民的分野	●○市の正答率73.5%に対して73.1.%と0.4%下回っている。分野別にみると、私たちの生活と現代社会に関する問題については、市の平均を2.8%上回った。	・社会的事象に関する意欲が高まるようにしたい。新聞記事などを通して時事問題に触れ話し合いをさせる。また、裁判などではシミュレーションをして模擬的な体験をさせることも大切である。資料活用 of 技能を向上させる学習活動を展開する必要がある。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	75.4	76.7	72.6
	図形	70.9	68.1	63.8
	関数	64.1	61.2	54.4
	資料の活用	68.8	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	55.2	56.8	50.8
	数学的な技能	73.8	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	74.2	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

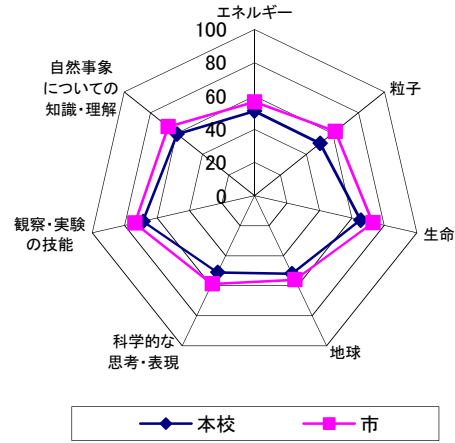
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○式を計算する問題は、正答率90%を上回っている。 ○式の展開、因数分解、平方根の計算の正答率は市を平均3.7%上回っている。 ●2次方程式を解く問題、2次方程式の活用の問題は市の平均を10%下回っている。 ○「数と式」に限らず、全体を通して、基本的な問題の正答率が市の平均を上回っているのは、かがやきルームやT.Tの効果が大いと考えられる。	・今後も、繰り返し計算問題に取り組ませる時間を多くもち、習熟を図っていく。 ・活用の問題にも対応できるように、発展的な内容にも取り組ませる時間を設定する。
図形	○多角形の内角の和、三角形の合同の証明の問題は市を上回っている。 ●相似な図形の性質から辺の長さを求める問題の正答率は市を4.1%下回っている。	・「相似な図形」についてその考え方をもう一度復習し、理解を深める。
関数	○関数の基本的な学習内容の定着を見る問題の正答率は市を平均6.8%上回っている。 ●Xの2乗に比例する関数の活用の問題の正答率は市を平均5%下回っている。	・関数を活用することが苦手な生徒が多いので、身の周りの事象を関数的に捉え、それを利用するような問題に取り組む機会を多く設定する。
資料の活用	○度数分布表、相対度数、確率の基本的な問題の正答率は市を平均3.5%上回っている。活用の問題の正答率はほぼ市と同じである。	・資料の活用の基本的な内容を復習させ、それを活用したり、説明したりする問題に取り組む機会を設定する。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	50.9	56.4	49.9
	粒子	50.4	62.0	57.4
	生命	65.4	72.9	67.1
	地球	51.9	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	51.1	58.8	52.1
	観察・実験の技能	68.8	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	59.5	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

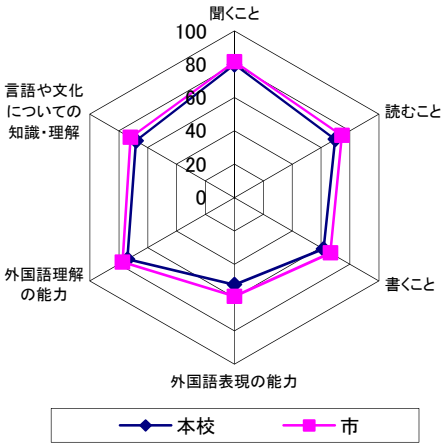
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	●市の正答率56.4%に対して50.9%と5.5%下回っている。参考値と比較してみると、1.0%高い。とくに光の分野で、全反射について大きく下回っていた。	光などのエネルギーに関しては視覚的に捉えることが難しいので、実験・観察で得られたことを、さらに映像で確認していく。また、重要語句に関しては繰り返し復習させる。
粒子	●市の正答率62.0%に対して50.4%と11.6%と大きく下回っている。 ○実験器具の使い方に関しては良好である。 ●グラフや表の活用に課題が見られた。	実験器具の使い方、注意点については、今後も引き続き指導していき、得られた結果をグラフや表に表し、それらを活用できるように指導していく。また、文章で説明したり発表したりすることが苦手なので記述式の問題を授業で多く取り入れていく。重要語句に関しては繰り返し復習させる。
生命	●市の正答率72.9%に対して65.4%と7.5%下回っている。 ●実験で得られた結果などについては理解できているが、なぜそのような結果になったのかの理由を説明することが十分にできない。	観察・実験する際、何について調べるのかを明確にする。また、結果を考察し、話し合い活動を行い理解を深めさせ、重要語句に関しては、繰り返し復習させる。
地球	●市の正答率56.0%に対して51.9%と4.1%下回っている。 ○火山の形からマグマの粘りけを考えるとや前線の名前については良好である。 ●岩石のでき方や特徴の理解や、天気は次にどのように変化するか予測することが十分にできていない。	予測、推測することが苦手なので、授業での発問を工夫し、積極的に発言させたり、文章で表すことを取り入れる。重要語句に関しては、繰り返し復習させる。

宇都宮市立上河内中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.7	81.4	76.1
	読むこと	69.8	74.4	71.2
	書くこと	61.6	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	52.2	59.3	51.7
	外国語理解の能力	74.1	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	68.1	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○絵を表している英文を聞き取る問題や英文の要点を聞き取る問題に関しては市の平均正答率を1%超えている。 ●対話文の内容を聞き取り、適切に応答する問題や対話の内容を聞き取り資料を基に英語で答える問題では正答率がかなり低くなり市の平均を3.4%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日頃の授業でClassroom Englishだけでなく、多くの英語を使いながら授業を進め、英語に慣れ親しんでいるため少しずつ成果が出てきた。またALTとの協同授業ではネイティブの英語発音に慣れるよい機会となっており積極的に英語を聞く態度が身に付いている。 ・まとまりのある英文を聞いて概要を聞き取ったり、相手の意向や必要な情報を聞き取る力を高めていったりすることが大切である。日頃から授業の中で英語での言語活動や発問を行い、さらには場面設定を工夫し、大切な部分を聞き取り、適切に答える力を身に付けさせる。また、基本的なリスニング能力の定着とともに英語特有の表現や定型会話を十分に理解させ、それを活用する力も高めていく。
読むこと	●読むことに関して市の平均を4.6%下回っている。まとまりのある英文を読み取る内容に関する問題で答える力が不足している生徒が多く見られた。 ○語形・語法の問題では半分の問題で市の平均を超えるなど語形・語法の知識は少しずつ身に付いてきた。	・一文一文解釈することに集中しがちな生徒が多いため、読みとりのポイントを十分指導し、英文を見たとき大まかな流れ、概要や要点を捉えられるような読みとりを身に付けさせる。その時基本となる英語の語彙、基本文法、問いかけに対する応答の仕方を身に付けさせることが必要である。教科書だけにとどまらず、長い文章や簡単な物語などまとまった内容の英語を読む機会を増やす。また一文一文の解釈から全体を読みとる方法と、細かくそれぞれの構文にとらわれずに文全体の内容や概要を読みとらせる方法を指導していく。さらに読みとりの力を付けさせるためにより多くの語彙、既習の文法をしっかりと身に付けさせていく。
書くこと	●語彙の知識・理解を問う問題、並び替えの問題、英作文の問題などこの領域の全て問題において市の平均を下回っている。全体で市の平均より4.9%下回っており、上河内の生徒にとってこの領域の力を付けることが大きな課題である。	・授業で基本文や単語は何度も繰り返し発音させているが、書くために必要な単語や表現が生徒に定着していない。書く力を付けさせるために教科書の基本文を暗唱させるだけでなく、繰り返し書かせる活動を定着させたり、単語テストを定期的に行ったりするなど継続的な指導が必要である。また基本となる語彙や基本文の定着を徹底するために、書く活動を授業だけにとどまらず、課題として家庭で継続的に行うように指導していく。場面に応じて使用する言語材料をしっかりと把握できるよう、文法事項の導入では身近な場面を設定するなど心がけ、生徒が自分のことを英語で表現しようとする意欲や習慣を付けさせる。